

<全体分析>

試験時間 120 分

解答形式

記述式 2 個, 論述式 11 問\* (150 字×1, 125 字×5, 100 字×2, 75 字×3 計 1,200 字)

\*うち記述式を含む論述式が 2 問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

教科書だけでなく、一步踏み込んで新書や新聞などにも注意しないと解答の方向性が見いだせないような話題からの出題が今年度も見られた。

また、課題文や資料 (図表など) を読み取らせる出題形式も例年どおりである。ただ、以前は膨大な資料が与えられていたが (2013 年と 2014 年はいずれも 11 点)、昨年度は 4 点に減少し (図 2 点, 表 2 点)、さらに今年度は 2 点 (図 1 点, 表 1 点) に減少した。近年は、資料が少なくなる傾向にある。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述式	都市における人間と動物の関係	問 2 都市化にともなう単身者の増加や、地域社会の変容がポイントである。問 3 都市部のマラリアが深刻でない区域の生活条件などが、どこまで書けるかがカギである。問 4 湿地の働きから考えよう。	標準
II	記述式 論述式	東南アジア	問 1 論述部分は新聞などで目にする内容であり、高得点を目指したい。問 2 中国との関係が国によって異なることを論じよう。問 3 基本的内容で、高得点が可能である。問 4 遅れたミャンマーなどに対しては、インフラ整備のため建設業の比率が高いことがポイント。	標準
III	論述式	北欧諸国	問 1 自治領の EU 加盟・非加盟は難しい。問 2 協定の目的は基本であるが、北欧諸国における意義は何を書いたらよいか迷う。問 3 近年まで加盟していなかった国について、非加盟であった理由まで論じたい。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 近年は高校地理で学習する知識で対応できる問題が増えているが、自身で課題を想定し、それを解決するような力を身につけておくこと。また、難解な文章が多いので、正しく読み取る訓練をしておこう。
2. 地域では、東～南アジアやラテンアメリカを中心とする発展途上地域が、分野では、農業、鉱工業、貿易や交通・通信、観光関係が、一橋大学入試の頻出テーマである。
3. 100 字～150 字の論述練習を積むとともに、今年度は出題されなかったが 200 字以上の論述の訓練も行っておくこと。文章作成能力も重要であり添削指導を受けることが望ましい。
4. 統計資料を判定する訓練を行うとともに、資料の中から「ポイントとなる部分」を早く見抜く能力を養っておこう。また、統計と地図を結びつけて体系的に捉える練習をするとよい。
5. 歴史教科書や新書などを利用して、一橋大学入試でよく問われる近代の史実も学習しておくことよい。また、白書・新聞などを活用し、新しいテーマや話題についても理解を深めておこう。